

# 「山梨学院大学スポーツ科学研究」第7号の発行に寄せて

スポーツ科学部 教授 笠野 英 弘

「山梨学院大学スポーツ科学研究」第7号の発行にあたり、本学部教員の研究および教育を取り巻く状況に触れながら、本紀要の意義や役割を考えてみたいと思います。一般的に大学教員の仕事は、「教育」・「研究」・「学内運営」・「社会貢献」の4つとされていますが、論文の執筆は「研究」、その公表は「社会貢献」として捉えられ、紀要の発行はこの「研究」と「社会貢献」に該当すると思われます。今号には、研究論文2編、実践研究2編、報告2編が収められ、本学部の「教育」を題材とした研究も含まれており、そこからは本学部の教育実践を垣間見ることができます。また、研究紀要委員会が中心となって投稿論文の査読や編集等の紀要発行に係る様々な「学内運営」業務がなされました。このように考えると、本紀要は、本学部教員の仕事の成果の一部がまとめられているものとして捉えることもできるように思います。したがって、本紀要の1つの役割は、本学部教員の仕事の成果を公表し、ご覧いただくみなさまから学部に対する評価をいただくことにあると考えます。

また、そもそも研究は人間の知的欲求に基づいて行われるものであると同時に、より良い社会を築くために行われるものだとすれば、本紀要は、本学部教員の知的欲求に基づきながらも、より良いスポーツの構築に寄与するものであることが重要になると考えられます。本学部の設置の趣旨には、学部の教育目標としてスポーツを推進する人材の育成が掲げられていることから、本紀要のもう1つの役割は、そのような教育を充実させることにもあると考えられます。例えば、本紀要で公表された研究によって、本学部の教育が充実・向上し、本学部の学生が卒業後にスポーツ界で活躍することで、より良いスポーツの構築につながるといえます。また、同趣旨には、1977年に設立された本学カレッジスポーツセンターの下で活動している強化育成クラブの科学的サポートが本学部の役割として挙げられています。したがって、より良いスポーツの構築を狭義に捉えれば、強化育成クラブの学生アスリートのスポーツ実践（「する」にとどまらず「みる」「支える」等を含めた実践）をより豊かにすることへの貢献も本紀要の役割として挙げられ、それは他大学（学部）と比較した本紀要の特色にもなると思います。

こうした本紀要の役割を鑑みれば、それはまさに本学部にとって重要な意義をもつものであり、本学部教員が積極的に研究し、その成果を執筆・公表することは責務であると考えます。加えて、他の職業と比較した場合、研究が大学教員の4つの仕事の中でも大きな特徴の1つであることから、研究こそ大学教員の基盤に据えることが求められるのではないのでしょうか。しかし、本学においてもご多分に漏れず、教育・学内運営・社会貢献に関わる業務量の割合が多くなり、教員が研究に十分な時間を確保することが困難になってきています。その中でも、精力的に研究をされ、本紀要に投稿された先生方には心より敬意を表します。

みなさまにおかれましては、以上のような本紀要の意義や役割を果たせているかどうか、是非とも本紀要をご高覧いただき、忌憚のないご意見をお寄せいただけましたら幸いです。